

令和7年度 次世代創出PBL推進事業  
**実施報告書【STEAM教育推進校用】**

学校番号	13
学校名	富山県立富山中部高等学校

重点課題	Society5.0の時代において新しい価値を共創できる人材の育成を目指し、探究学習や教科等横断的な学習について先進的なプログラムを開発・実施する	
課題設定の趣旨	本校では、スクールポリシーで「新しい社会を共創し、未来の日本と世界をリードしていく人を育成する」ことを掲げている。変化の大きな社会に生じる多様な課題の解決には、文理や教科など既存の枠組みにとらわれない多面的なものの見方や柔軟な思考、他者と協働的に課題に向き合う姿勢が必要になる。そうした資質や素養を育むため、教科横断的な学びのプログラムを開発するとともに、産・官・学との連携を強化し、多様な立場の人や組織と関わる機会を提供していきたいと考える。また、多方面に進学した卒業生や職業人の話を聞いたり、企業見学を行ったりすることで、生徒の視野を広げるとともに将来のビジョンを持たせ、高校での学びのあり方を考えさせる契機としたい。 なお、こうした取組の成果については、報告書や成果発表会などを通して他校にも普及を図り、STEAM教育推進の拠点校としての役割も果たすこととする。	
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的な学びを推進するためのプログラム開発、カリキュラムマネジメントの充実</li> <li>・幅広い教養や協働力を身につけ、課題に柔軟に向き合う姿勢を培うための外部連携推進</li> <li>・科学的思考の基礎となるデータサイエンスの利活用能力向上</li> <li>・新しい社会を共創する基礎となる探究力、およびその評価方法の見直し</li> </ul>	
実施内容 (具体的に記入する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスに関する学びのプログラム開発              NTTデータより林 裕也先生を講師にお迎えし、「林裕也のAI活用探究ラボ」のテーマで、生成AIに関する教員研修会を他校の教員の参加も呼びかける形で実施した。</li> <li>・産・官・学との連携              2学年の「SS探究Ⅱ」における課題研究で、各ホームの研究テーマに即した講師を自治体や企業から招き、講演や探究活動へのアドバイスをいただいた。また、例年通り、「発展探究」の課題研究指導や「SS講演会」、教員向けの研修会等では大学との連携を図っている。              埼玉大学で行われた日本物理教育学会次世代形成WGと社会変革研究センター脱炭素推進部門の共催による現役の高等学校理科教員とのワークショップに参加した。</li> <li>・進路意識の高揚を図る行事              2年生の「大学探訪」では卒業生の話を聞いたり、企業見学を行ったりした。また、「進路講演会」では各分野で活躍している社会人の方々を招聘し、講演をいただいた。大学生の話を聞いたり、大学に合格したばかりの卒業生を招いて受験体験談を聞いたりする機会も設けた。</li> </ul>	
取組の成果 (STEAM教育推進の観点から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部連携の機会を多く設けることで、既存の授業の枠組みを超えた知見を得ることができた。多様な分野への興味関心を持つことができ、また、さまざまな角度から課題を捉える姿勢を養うことができた。</li> <li>・普通科における探究活動を充実させることによって、学校全体の探究力や科学的思考力の底上げを図ることができた。</li> <li>・化学と美術の教科横断型授業では、絵の具の化学的性質を理解し、表現を科学的な視点から分析したり、科学的根拠に基づく絵画修復の技術を学び、文化財保護と科学の関わりを考察したりすることができた。英語と世界史の教科横断型授業ではガンディーの非暴力・不服従の行動を英語で学び、現代の環境問題への行動指針を探ることができた。地理と美術の教科横断授業では、歌川広重の浮世絵と地理院地図を照合し、東京・品川の地形や時代背景を多面的に分析することができた。生徒の振り返りからは、多角的な視点の獲得、探究活動への動機付け、新しい価値の創造について意識変容が見られた。教員もその効果を実感し、今後の取組に向けて意欲が高まった。</li> <li>・卒業生や職業人の話を聴くことで、学校生活の外にも視野を広げるとともに、自らの将来像を具体的に思い描くことができた。また、将来につながるものとして、日々の学習や諸活動へのモチベーションを高めることができた。</li> </ul>	
対象者(学年・人数など)	1年生240名(普通科160名、探究科学科80名) 2年生238名(普通科158名、探究科学科80名)	
実施実績	4月	①2学年「SS探究Ⅱ」探究講演会
	5月	
	6月	
	7月	②探究教育部主催STEAM教育教員研修会
	8月	③2学年大学探訪
	9月	
	10月	④1学年進路講演会
	11月	
	12月	⑤1学年STEAM講演会 ⑥理科ワークショップ
	1月	
	2月	
	3月	⑦1学年海外研修指導、⑧1, 2学年進学探究講座、⑨卒業生に学ぶ会、⑩アメリカ研修報告書発行、⑪課題研究記録集発行